

## 伝え守るふるさと

わたしたちの住む地域、原には「あやめの前伝説」の言い伝えがあります。

「あやめの前伝説」は、毎年11月に行われる学習発表会で披露する群読劇です。源頼政が宇治の平等院で自害した後、その妻であるあやめの前は平家に追われながら西へ落ちていきます。途中、我が子やお供のものたちの死にあいながら、それでも鶴姫や馬などに助けられ、原の地まで逃れてくるのです。あやめの前はこの原の地を終の棲家とし、原の村人たちもあやめの前を守り神として小倉神社に祭ったという伝説です。

わたしたちは、9月から練習を始めます。まずは、心を合わせて大きい声で群読することからです。声をひとつにすることは、簡単なようでなかなかできません。こっちは、同じタイミングで息を吸うこと。わたしたち6年生は、男子が頼政、女子があやめの前の役をします。主役なのでわたしたちが気を抜くわけにはいきません。わたしは、できる限りの声を出して群読しました。

内容を覚え、声をひとつにすることができるようになったら、動きや演技をつけていきます。わたしは、去年の6年生を思い出しました。先輩がどのような動きをしていたか、どちらを向いて群読していたか。去年、6年生の後姿を見ながら、

「来年は、わたしがあやめの前をするんだな。よく見ておかななくちゃ。」と、不安になったことを思い出します。今年は、その位置にわたしが立ち、5年生が後ろから見ていると思うと不思議な気持ちになりました。そして、これが伝統を引き継いでいくことかなと、なんとなく思いました。

わたしたちは地域の西垣さんと細川さんにお話を聞くことができました。特に「あやめの前伝説」とゆかりのある小倉神社を、地域の方が大切に守られてきたことはとても心に残りました。その話の中でも「伝統を引き継ぎ、残していくことはすばらしいことです。みなさんも、原の地域の一員として伝統を守り続けてください。」という言葉は、ずっと大切にしていきたいと思いました。

「あやめの前伝説」は、毎年地域の方に好評です。今年も練習をがんばって絶対成功させたいです。それが、家族や地域の方への恩返し

だと思っからです。

地域の方が大切にしている「あやめの前」を大切に演じることが、  
伝統を守ること、ふるさとを守ることだと思ひます。そして、この気  
持ちがずっと引き継がれていってほしいと強く願っています。

### 心のふるさと原

- 1 風に揺れる 花 青く広い 空  
緑の大地につつまれ ぼくらは育った  
あたたかい 笑顔 ふれあう 心  
やさしさあふれる この原  
ほこりにしたいよ

あやめの前がぼくらの 教えてくれたことは  
ふるさとを愛する気持ち 命の重み

伝えたいことがある 守りたいものがある  
いつまでもかがやけ 未来へと  
心のふるさと原

- 2 あやめの咲くころ 通ったあの道  
きみの背中を追いかけて走った おにごっこ  
ぼくがほほえむ きみがほほえむ  
むねにきざんだ風景は  
すてきなアルバム

いつかぼくもここを 旅立っていくとしても  
みんなで過ごした思い出 忘れはしない

伝えたいことがある 守りたいものがある  
語り継ごうふるさとの命を  
こころの宝物 原

伝えたいことがある 守りたいものがある  
いつまでもかがやけ 未来へと  
心のふるさと原